

投句欄 自由律の泉 ⑨

- 1 一つの約束がわたしを生かしている満月 久光 良一
- 2 GOTOトラベル 神にでもなったか 檜 幽可
- 3 かみ合わない話の明日天気になあれ ちば つゆこ
- 4 秋の優しさしみじみと昼寝の前後 無 一
- 5 今年また巡り来る亡き人の誕生日 金澤 ひろあき
- 6 秋風の路 風の吹くまま アカホリ フキ
- 7 マスク外してクチナシの清涼 白松 いちろう
- 8 妊る居待ち月へ蟲たちの小夜曲 佐瀬 広隆
- 9 夜の端無口の傘の影 野谷 真治
- 10 暑さ寒さは彼岸までではなかったか 大出 匡
- 11 太陽が雲を溶かそうとする秋空 大岳 次郎
- 12 風が鼻を擽るもうすぐ野良も柿いろじゃあ 植田 博
- 13 一日が短くなったと雨戸軋む老夫婦の声 小山 榮康
- 14 会わない会います会うとき会えば 田辺 まさゆき
- 15 母というたった一文字まるい月 棚橋 麗未
- 16 このままでいてもいいのかこのままでいて 明日原 夏斗
- 17 ミス・カーデガンの揺れる秋 佐川 智英実
- 18 デジタル化ついていけないスマホ難民 和寄 はると
- 19 深い過去の温もり探す夢に落ちる 部屋 慈音
- 20 いいなと思う元気な義父母 田中 美太

- 21 天才でなくてよかった日暮の唐がらし 井尾 良子
- 22 夜食を喰らう死に遅れ 江藤 霧鳴
- 23 手をつなぎませんか湖半周ほどの秋 さいとう こう
- 24 くずれゆくものマスクの内顔 富永 鳩山
- 25 鶏だったら殺処分 豚だったら殺処分 富永 順子
- 26 透き通る青の中孤独 荻島 架人
- 27 型にはめ底よりもれる不燃物 黒瀬 文子
- 28 燃えるごみ燃えないごみもあなたしだい 中島 雲舟
- 29 お休みとしか言わない夫婦の満月 平岡 久美子

● 泉 ⑧より 一句鑑賞

ぼーっと生きるのも好いよとナスの曲がり 佐瀬 広隆

▼私もナスを植えてみましたが、なかなか実がつかず、諦めかけた頃にやっと実がつかまりました。みんな曲がっていて、見栄えの悪い実ばかりでしたが、見かけによらず食べてみるとほんのりやさしい味がしました。

(久光 良一)

▼「ぼーっと生きてるんじゃないやねえよ」と絶叫する番組を見た。現代の競争社会では、「ぼーっと生きる」のはマイナスだ。しかし、生き方の見直しをすることも大切なのかも。「ナスの曲がり」が俳味。

(金澤ひろあき)

▼毎日毎日、バタバタと過ごす私も、この句を一読して「はっ」と思いました。忙しいと周りが見えなくなり。毎日、ぼーっと生きるのもちよっと私の性格では出来そうもないですが、時にはロッキングチェアを揺らして、ぼーっと外を眺めていたいと思いました。「ナスの曲がり」が実感です。

(ちば つゆこ)

ひとりの夜を命ひとつ抱いて寝る 久光 良一

▼ひとつの命は誰を指しているのだろうか、身につまされる句です。私は自由律に自分の老う命を結びたい。

(小山 榮康)

▼現在の境遇の断片を静かに詠まれている気がします。亡くなられた奥様への想いの深さが窺われる一句でしょうか。自らの残生を見つめられた一句なのかもしれません。心に響くものを感じました。

(檜 幽可)

カロリーを見てパンを戻す

明日原 夏斗

▼そう、パンはカロリーが高い。塩分も存外多い。生活習慣病に追いかけてられているわが身であれば、同感せざるを得ない。だが今どきの世、パンを戻しているのを見られるのは気がひける思いであったであろう。

(大岳 次郎)

▼健康上の問題から、食事の「カロリー」を制限しなければならぬ状況は、大変です。

(無 一)

コロナ前のお迎えで良かったねお父さん 石竹 和歌子

▼コロナ禍の中で心をこめたお葬式はなかなか出来ない。お父様はあまり流行でない時に亡くなったのでしょうか、たくさんの人に送っていただいたのでしょうか。良かったねなんて、とても悲しい一言ですよネ。

(井尾 良子)

▼義母が昨年亡くなったので共感します。作者の優しさが感じられ癒されます。

(佐川 智英実)

台所の窓の夕焼け冷凍秋刀魚焼き上がる

大岳 次郎

▼秋刀魚も高級魚の仲間入り。旬のものをいただきたいところだが、冷凍ものにしか手が出ない。それもだんだん難しくなっていくのだろうか。一日の流れと時の移りかわりを

感じてしまった。

(大出 匡)

▼「冷凍」という一言が入ることによって感傷が一気に湧く。焼き秋刀魚といえば秋だが旬自体が詠まれたのは夏かそれ以前だろう。季節外れな秋刀魚の焼色を「夕焼け」の色と重ねて季節を遠くから感じ眺めているのか。どこか俯瞰的に見ているような世界観に惹かれました。

(江藤 霧鳴)

どこにいる スマホがないている

綽 迎雲

▼新しい菅政権の下、デジタル庁ができた。国際的にもIT化の遅れをとっているわが国の新しい国策だ。ハンコも紙もなくしていききたい。銀行の通帳もデジタル化に……。新しい時代になっていく気配だが、困ったものだ。

(和寄はると)

虹産まれる古本屋の再開

野谷 真治

▼コロナウイルス等、社会の状況が様々ですが、書店等の個人店経営は、特に大変であると察します。私は、本が好きでよく通っていたのですが、昔からの雰囲気は、ずつと残っていて欲しいものです。

(アカホリ フキ)

雨あがり会いたいあじさい

金澤 ひろあき

▼「あ」が4つ。「い」が3つ。読んでみると、リズムが楽しい。会いたいあじさいには会えただろうか。

(野谷 真治)

帰って来たホトトギスと夜明け待つ

部屋 慈音

▼夜明け方に鳴くホトトギス、あの鳴き声は特別に胸にひびきます。私の故郷では、五月頃の夜明け方に鋭く空気をふるわせて鳴いているのですが、姿を見たことは一度もありませんでした。あの鳴き声がもう一度聞きたい。

(棚橋 麗未)

車椅子の妻は野花に触れて吾を見返る

小山 榮康

▼野花に触れた瞬間、閃きのような感慨が湧き起こった(よみがえった)のでしょうか。夫を見返る妻の顔の新鮮な美しさが目に見えるようです。

(田辺まさゆき)

▼車椅子の妻に寄り添う夫の妻への愛情、野花に触れる奥様の人となり、そして吾とある一人称は一人ではなく二人であると思われる夫の表現に、この句の重さと爽やかさがある。

(部屋 慈音)

折鶴羽をひろげる空の深さ

棚橋 麗未

▼コロナ禍の終息を祈りながら折鶴を折る。羽を広げて思いよ届けと放つと、高々と舞いながら空の彼方へ向かって行った。空の深さに思いの強さを感じる。(白松いちろう)

出口のある迷路ならいいのだが

田辺 まさゆき

▼人は見えない苦難に陥ったとき、出口を求めて必死にあがくものです。それがどんな迷路であろうが、出口さえ見つかればと。不安や焦りの気持ちが込み上げてくる句になっ

ています。

(明日原 夏斗)

近くで戦いがある 電源をお切り下さい

井尾 良子

▼コロナ禍で、世界中が一つになって平和になるのかといえはそうでもないらしい。でも私たちは電源を切るくらいしかできないのだろうか。悲しい。

(平岡 久美子)

●係より

次回も、皆様の作品一句と、今回の作品の感想をお寄せください。左記宛てに、郵送の場合は同封の投句用紙、またはメールにて。

＜送り先＞ 〒193-0832 八王子市散田町2-58-4

平岡久美子

メール kumiko801@wh-wing.net

＜締め切り＞ 2021年2月20日

★「自由律の泉」にご投稿いただいた句や感想は、原則的に自由律俳句協会の公式ツイッターでも紹介させていただきます。ツイッターでの紹介を希望されない方は、投句の際にその旨をお知らせください。

【予告】

次回は、「自由律の泉・大賞」(第1回)の

投句募集案内も併せて掲載する予定です。

どうぞお見逃しなく！

